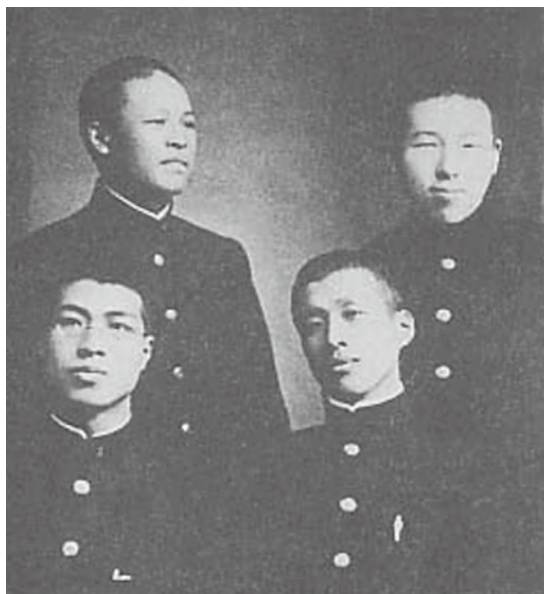




いま 現代に伝える・・・ "アザリア記念会"



保阪嘉内(左上)・宮沢賢治(右上)
小菅健吉(左下)・河本義行(右下)

2006年保阪嘉内・宮沢賢治生誕110周年を記念して実行委員会が設立され、記念の集い・記念展示会が市内で開催されました。現在も宮沢賢治の作品は多くの人に親しまれ、新聞テレビなどで取り上げられています。が、その宮沢賢治と盛岡高等農林学校で学び、また同じ理想を持ち、友情をあたためた葎崎出身の保阪嘉内について詳しく知る人は、市内でもまだまだ少ないようです。

二人の友情や青春の葛藤は、昨年の「なんでも鑑定団」でも話題となった「賢治から嘉内への73通の手紙」にも著されています。

「アザリア記念会」は実行委員会の活動を受け継ぐ団体として発足。二人のかかわりや残された手紙（保阪家には他の二人のメンバーからの手紙も保管）を通して「アザリア」の主要メンバー四人の絆を現代に伝える活動を行っています。

広報では「アザリア記念会」について、今月から連続して特集します。

「アザリア」とは、今から90年前の1917（大正6）年に、盛岡高等農林学校（現在の岩手大学農学部）で誕生した「アザリア会」発行の同人誌（文芸雑誌）です。会員は全部で12人。第1号が発行されたのは1917年の7月1日。その後、2・4・5・6号と不定期に発行され1918年6月26日発行の第6号で終刊となりました。わずか1年ほどの短命な雑誌でしたが、この手作りのちいさな雑誌を通じて、宮沢賢治は文芸に目覚めていったのではないかと考えられます。

この同人誌をきっかけに4人は深い心のつながりを持ち、保阪嘉内・小菅健吉・河本義行は、賢治にとつてかけがえない友となったのでした。



「アザリア」2・3・5・6号
(保阪嘉内旧蔵本)

== アザリア記念会 ==

(目的)

保阪嘉内・宮沢賢治らを中心とした「アザリアの友」の友情と理想を受け継ぎ、現在につながる活動を進める。

(経緯)

宮沢賢治・保阪嘉内生誕110周年記念実行委員会を受け継ぐ団体として設立。

(会員)

保阪嘉内生誕の地、葎崎市民を中心メンバーに市外・県外からも会に参加している。また、嘉内の長男善三氏、次男庸夫氏も顧問として名を連ねている。

(主な活動)

- 毎年10月18日（嘉内の誕生日）前後に「花園農村の碑」碑前祭を開催
- 「アザリアの友」関係組織との連携・交流
- 会報「アザリア」の発行
- 出版・広報活動、ブログ『宮沢賢治と「アザリア」の友たち』の運営



昨年10月18日に
行われた碑前祭の様
模様

「特集」 保阪嘉内・宮沢賢治の友情を

嘉内ゆかりの場所

二人の友情を記念した 花園農村の碑

嘉内の生家に近い、東京エレクトロン葦崎文化ホールの前庭に建立されました。



岩手県から贈られた ぎんどうの木

「ヤマナシ」の木を贈ったお礼に、2人が歌に詠んだ「ギンドロ」の木が岩手県知事から贈られ、市内3ヶ所に植えられています。

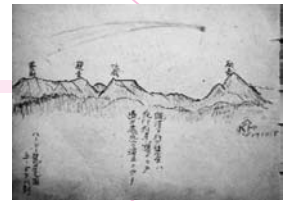


保阪家先祖が眠る 屋敷跡「古屋敷」

資料と写真（一部）はアザリア記念会より提供していただきました。

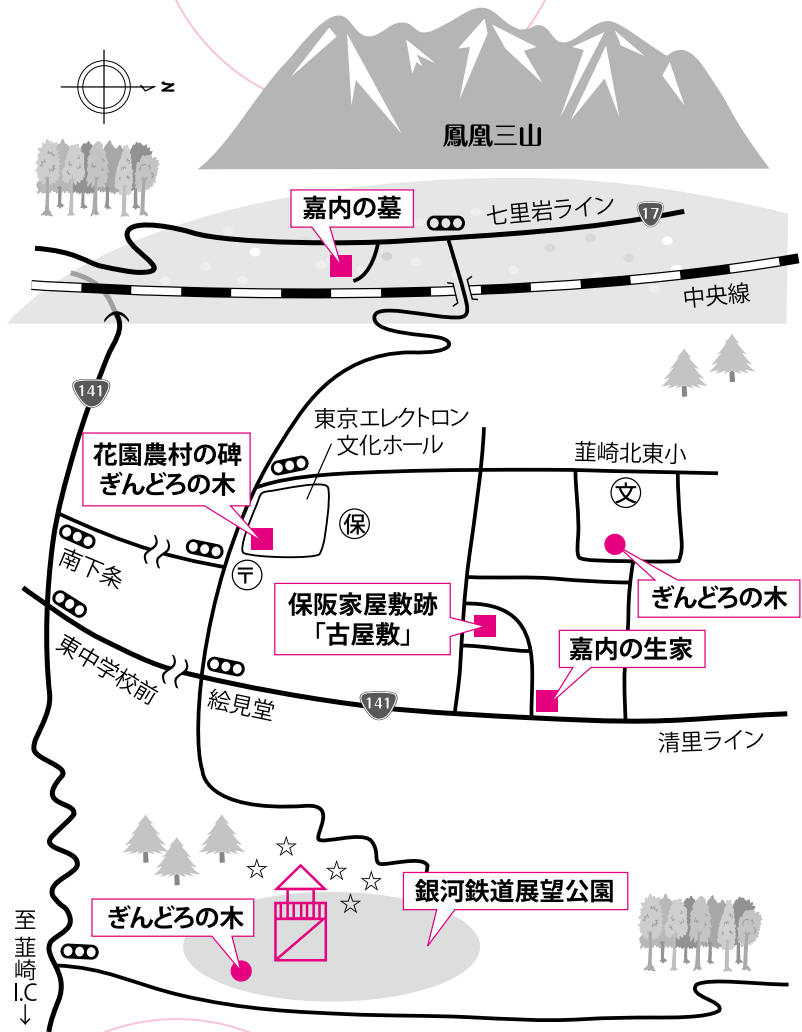


嘉内が短歌を詠んだ 鳳凰三山（地藏ヶ岳）



嘉内が静かに眠る 共同墓地

嘉内の生家を見下ろす七里岩台上のお墓には、2人と妻さかゑの歌が刻まれた碑が建てられました。



夜空に進むような列車が見られる 銀河鉄道展望公園

宮沢賢治の名作「銀河鉄道の夜」のヒントになったとも言われる葦崎の夜空。この場所からは、まさに銀河鉄道といった夜景を見ることが出来ます。

賢治の心友「保阪嘉内」は、 どんな人物だったの？

保阪嘉内は、1896（明治29）年10月18日、山梨県の駒井村（現韮崎市）に生まれました。



県立甲府中学校を卒業後、東北帝国大学農科大学（現北海道大学農学部）の受験に失敗し浪人生活を送った後、1916（大正5）年に盛岡高等農林学校（現岩手大学農学部）の農学科第二部に入学し、寮で宮沢賢治と同室になります。それが縁で賢治との仲が深まり、1917（大正6）年7月には共に「アザリア」を創刊します。しかし、「アザリア」に過激な文言の文章を掲載したことがもとで学校から除名処分を受け、志半ばで盛岡高等農林学校を退学になりました。この時、賢治は嘉内に座右の書であった『漢和対照妙法蓮華経』を贈ったと言われています。

1918（大正7）年の3月、除名という厳しい処分を受け、学校を去ることを余儀なくされた嘉内は、再び駒場か札幌の農科大学を受験しましたが、受験勉強をする十分な時間も、心のゆとりもなかったためか不合格となりました。翌年の受験をめざし、明治大学に籍を置きつつ東京で勉強を続けていましたが、6月に母が急性肺炎で逝去したため、進学を断念して郷里に戻り、農業を営む準備を開始。賢治からは嘉内の母の死を悼む手紙が3度届いています。

自らを「農人」と称し、「花園農村」の実現に向けてさまざまな試みを開始した嘉内でしたが、旧弊な家や農村ではなかなか思うようにいかなかったようです。

その後は、一年志願兵として1919（大正8）年12月から1年間の軍隊生活。それに続く山梨教育会での勤務。こうした生活の中で嘉内は自らの進む道について悩んでいました。一時は家を出ること

も考えますが、賢治はそれを止める手紙を出しています。この時、もし賢治が止めなければ、その後の賢治と嘉内の関係は、もう少し違ったものになっていたかも知れません。

そして1921（大正10）年7月18日、賢治と嘉内は上野の帝国図書館で再会しますが、宗教に対する考え方の違いから激しい口論の末に訣別したと言われています。

1921（大正10）年以降嘉内は、さまざまな仕事に就きつつ、予備役の軍事演習などに参加して数年を過ごし、1924（大正13）年、山梨日日新聞社に入社、記者として文芸欄や編集を担当します。嘉内が担当した新聞の歌壇に短歌を投稿した佐藤さかると知り合い、結婚したのもこの時期です。

しかし、嘉内は農業への思いを断ち切れなかったのか、まだ営農を考えるようになり、1925（大正14）年山梨日日新聞を退社し、駒井の実家に戻って再び理想の模範農村——「花園農村」をめざして活動を再開するのです。

次回につづく

宮沢賢治って有名だけど・・・どんな人だったの？

1896年（明治29年）岩手県花巻市生まれ。浄土真宗の信仰が篤い家庭で育ち、幼いころより仏教への関心が深かったが、1914年に法華経と出会い傾倒していく。

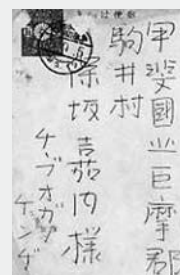
小学校の頃は鉱物や昆虫の採集を熱心に行い、盛岡中学在学中に短歌の創作を始めた。

盛岡高等農林学校（現岩手大学農学部）の2年生の時、1年遅れて入学してきた保阪嘉内と自啓寮で同室となり、共に志が同じであることや短歌の創作など同じ趣味を持つ事で急速に交友を深めていった。

卒業後は農学校教師、農業指導者としても活躍。賢治の理想郷は「イーハトーブ」という名であった。詩人・童話作家としてはあまりにも有名。

（主な著書）

- 「注文の多い料理店」
- 「風の又三郎」
- 「銀河鉄道の夜」
- 詩集「春と修羅」



「雨二モマケズ・・・」は、日本人なら誰もが一度は耳にしたことがある詩ですが、賢治没後発見された遺作のメモでした。

童話「やまなし」は現在使われている小学6年生の国語の教科書（光村図書）に掲載、岩手県との交流のきっかけとなりました。韮崎市でも使われ子どもたちが勉強しています。

蕪崎市のあたらしいまちづくり



市からは市長、教育課長、企画財政課長などが出席、アザリア記念会からは保阪善三、庸夫顧問、清水一会長ら9人の方々が出席して、終始和やかな雰囲気の中で、自己紹介から始まり、図書館と保阪嘉内資料館の

第2回アザリア記念会

「アザリア記念会」と開催

5月15日(金)、市民会館4階大会議室において第2回の「まちづくり懇談会」が行われました。

今回は「アザリア記念会」の皆さま(団体の概要についてはP2参照)と「蕪崎ルネサンスとまちづくり」と題して意見交換を行いました。

第6次長期総合計画策定記念 まちづくりシンポジウムを開催!

4月25日(土)東京エレクトロン蕪崎文化ホールにおいて『まちづくりシンポジウム』が開催されました。

前半は、前山梨県立大学国際政策学部教授の市原実氏による講演会が行われ、本市の長期計画の特色と市民と行政の具体的な協働事例についての紹介。後半は、市原氏のコーディネートにより、「協働でひろがる新たなまちづくり」をテーマに市民団体の代表の方々と市長によるパネルディスカッションが行われました。



参加された方からは、「各団体の活動がわかって良かった。」「自立した活動をしながら協働することが大切だと感じました。」といった感想が寄せられました。

※詳しい開催記録は、市のホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

【<http://www.city.nirasaki.lg.jp/art1165>】

■お問い合わせ 企画財政課企画推進担当 (内線355)

建設についての意見などが、熱心に語られ、市長からは、保阪家の資料を市の宝として大切に保存、公開していきたいという思いが語られました。また会員からは、現在市で意見をとりまとめている駅前シヨッピングセンターの利活用についてのご意見もありました。その後はアザリア会のこれまでの活動の紹介や賢治・嘉内関係資料につ

て全国的に注目されていること、新図書館のあり方などについて話が弾みました。まちづくり懇談会の詳細については、市ホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

■お問い合わせ
企画財政課企画推進担当
(内線 355~357)
【<http://www.city.nirasaki.lg.jp/art1114>】

子どもたちと市長との ~ ふれあい給食会 ~



《蕪崎小学校 5月13日実施》

第2回は蕪崎小学校で1年生を対象に行われた「給食試食会」に参加して、小学校に上がったばかりの子どもたちとそのお母さん方と一緒に、和やかな雰囲気の中、給食を食べました。教室には、親子の笑顔があふれていました。

☆栄養士から《献立のねらい》

子どもたちに人気のシャリシャリ大豆が入った“だいでご飯”大豆には体の中で作ることが出来ないアミノ酸(必須アミノ酸と言います)がたくさん含まれています。苦手な人もいますが“小さなひとつぶ”にもすばらしいパワーをもっているのです。

好き嫌いなく、しっかり食べましょう!



今回のメニュー
だいでご飯・すいとん汁
魚のみそソースあえ
大根干しのサラダ・実生柑・牛乳

■お問い合わせ
教育課学校教育担当
(内線263・264)
kyouiku@city.nirasaki.lg.jp

食へよう!学校給食シリーズ2